

第31回

書
索
展

二〇一六年五月二十七日(金)～六月一日(水)
有楽町マリオン11F
有楽町朝日ギャラリー

身定寒膠折邊城走梓聞
 吳符關帝駭天策動得軍
 塞散切笏撤砂即楚練分
 風旗翻翼影霜劍轉龍文
 白羽揮如月青山斷蒼煙
 疎野卷幔塵賊似銷氛投
 筆懷心班業賒戎想願數還
 應靈燻夏持此報師君

駱臨海詩 70×180×2

六月七日
 虎溪山前漢簡

虎溪山前漢簡 35×135

凍

寧

朝

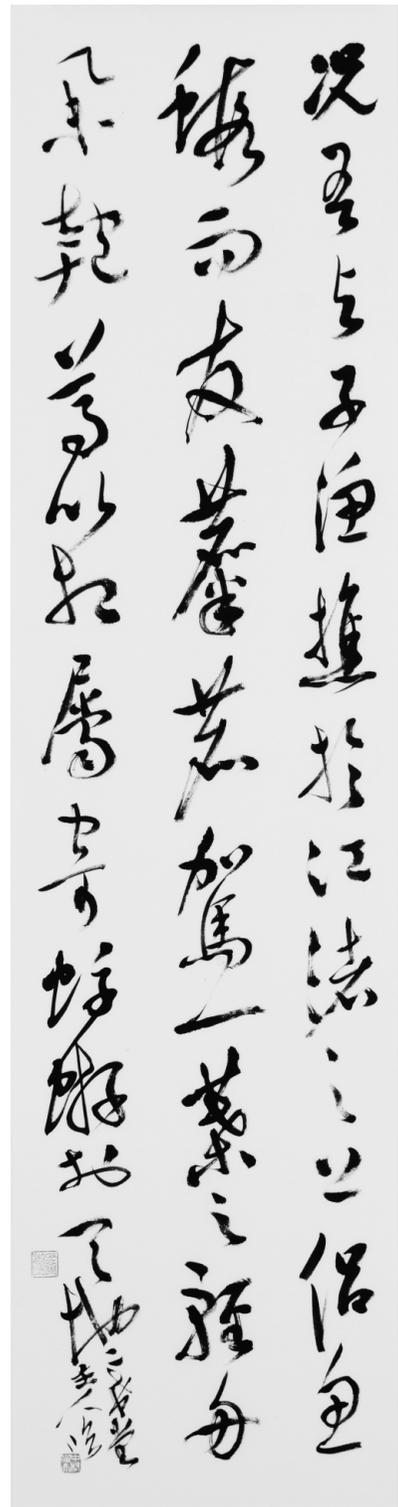
思い起こせば、書の道を志し筑波大学
 芸術専門学群に入学しましたのが昭和六
 十年、恐らくこの年に書索展が産声をあ
 げたのではないでしょう。爾来、同じ書
 の道を歩まれる先輩方の作品を、憧れを
 抱きながら拝見してまいりました。

今回、三十年の長き歴史を有する書索
 展のメンバーに加えていただき、第三十
 一回書索展に出品できますことは、誇り
 と同時に大きな責任を感じております。
 これまで先輩方が築いてこられた伝統
 を汚さぬよう、精進を重ねてまいる所存
 です。ご指導・ご鞭撻の程、よろしくお願
 い申しあげます。



小倉 太郎

昭和四十一年十一月二十一日生



臨祝允明〈前後赤壁賦卷〉一節 (135×35)

今から三十年ほど前、第一回書索展の開催に際して、故今井凌雪先生から、この展覧会の参加者に対する期待の一文が寄せられました。一文の主旨は、公募展が盛んなことはよしとして、社会全体の中で確たる存在が担えるものとしての書、そのような新しい書の姿、存在感というもの、を、みんなの努力で作ってほしい、というものでした。もちろん、先生から提示された大きな課題に対する答えを、この小さなグループ展が出せるものではありません。先生からの課題につながる小さなこととして、私達にできるのは、参加メンバーが大きく入れ替わった今回の第三十一回展からも、メンバー一人一人が、それぞれなりの考え方を大切に、個々の資質と方法を最大限に活かして、自由奔放に制作活動が続けていくことだと思っています。



中村 伸夫

昭和三十年一月二十七日生

障子というものは面白味が多い好きなものだが雪につけ雨につけ明るくなり暗くなったりと私の心を惹く障子は内から見て面白いはかりとなく外から見た感じも好い町に見つけた窓の白い障子なども趣がある燈火の映ったのも好いものだ障子は紙の色の変遷も行くところにも趣があるを張替へた時ほど室内の光景を二変させるものは無い忙がしい手間を見つけて障子の切張をして居る時などは妙に心が落ち着くところ客が訪ねて来て笑れたりなど思うと思ひの外話が出来そうかい

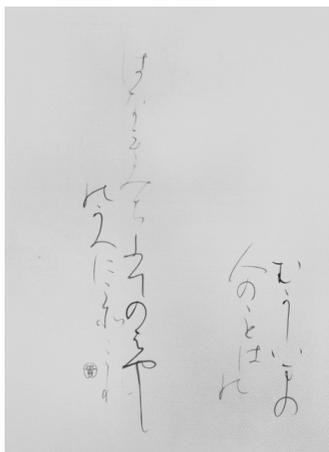
島崎藤村の文

島村藤村の文 (88×133)

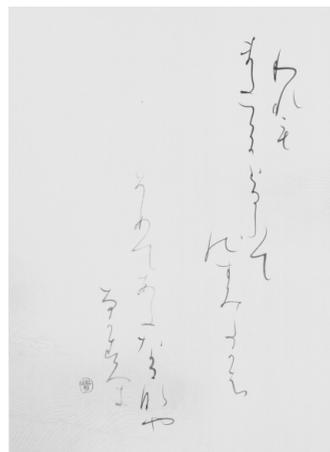
書索展は昨年の三十回でひと区切りをつけ、今回からメンバーが入れ替わって新しいスタートをきりました。一回展を開催する時に恩師の今井凌雪先生から「長く続けなさい。」という助言を受けましたが、紆余曲折しながら今回の第三十一回展を迎えることができました。これからのように展開してゆくのか、私も楽しみです。自分に磨きをかけて真剣に取り組んでゆく所存です。これからもよろしく願います。



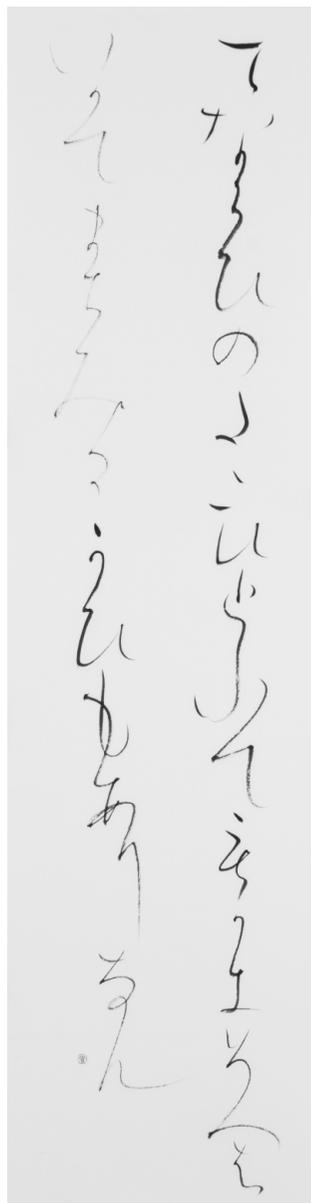
中村 博子



③ 荷田春満の歌 (33.5×24.5)



② 烏丸光広の歌 (33.5×24.5)



① 後水尾院の歌 (137×35)

平成二十七年、巻筆の製法を唯一、今に伝える攀桂堂（滋賀県高島市）が創業四百年を迎えました。これを記念して刊行された『筆の源流 巻筆の世界―攀桂堂雲平筆四百年―』には、佐野光一先生撰の「筆」を詠み込んだ歌・百首のアンソロジー「筆百首」も収められています。掲載は、そのうちの三首です。

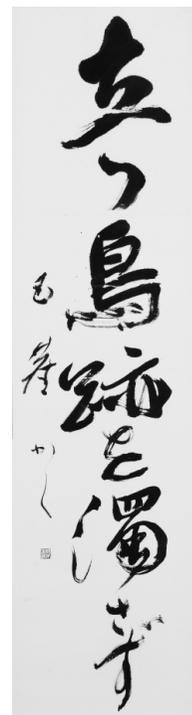
① 手習のたゞ一筆も書き添へばいかで待ち見るかひもありなん 後水尾院
 ② 我も又手にとるふでのすみだ河そめてあだなる名やながすべき 烏丸光広
 ③ むかし今の人のこと葉の花紅葉ふでの林の上こそみれ 荷田春満

筆はもちろん雲平筆で、と励みましたが、いかんせん筆に腕が追い付かず…。
 改めまして、今回よりメンバーに加えていただくことになりました。御覧の通りの未熟者ですが、精進してまいる所存です。御教導のほど、謹んでお願い申し上げます。



橋本 貴朗

昭和五十年十二月十六日生



② 立つ鳥跡を濁さず (137×35)



① 宋之問詩 (175×69)



④ 菜根譚一条 (202×60)



③ 長相思 (138×34)

昨年の夏、中村代表から書索展への出品依頼がありました。本展には第二十三回展に招待出品者として一度参加しております。それから八年が経過、書を取り巻く環境は大きく変わった気がします。今回は、この期間に制作した殊の外思い入れのある旧作四点（うち二点は未発表）と新作一点を展示いたします。

何卒御高覧、御鞭撻の程よろしくお願いいたします。

- ① 第三十回読売書法展出品。展覧会場で偶然中村代表に会い、温かい御批評を頂戴した作。
- ② 一昨年父が他界、その直後二点書したうちの二点。
- ③ 亡父の一周忌にあたり書した三点のうちの一つ。
- ④ 昨年、師匠樽本先生が最後の日展審査員になり出品した作。（結果は残念ながら落選）
- ⑤ 新作は陳淳・行草書山居雜賦卷（上海博物館蔵）を原寸で臨書。



橋本 玉塵

昭和三十三年六月八日生



鯨 (150×53)

小笠原の大海原で観た、
鯨の優雅なパフォーマンス。

ひらり

ひらりと、

尾びれを返す。



松本 淳子

昭和二十六年九月十二日生

● 書展に関する連絡先 ●

中村 博子

〒305・0031 茨城県つくば市吾妻四一・二一・一〇
電話 ○二九八一五八一・二二八五